

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立当初より掲げている School Motto (スクール モットー)「Find a Way or Make One (見つけよう つくりだそう 明日への道)」のもと、「自らの手で明日への希望や目標を見だし、その希望(夢)や目標に向かって邁進する」生徒を育てる。特に「ステップ フォワード ～ 一人一人が『意欲』をもって～」を合言葉に、生徒と教職員とがともに、今在る所から未来へ向かって踏み出し、現状を目標に近づけるという意志と意欲をもって物事に取り組む。生徒の育成に当たっては、以下の3つをめざす。

- (1) 意欲と高い志をもって、夢や目標や可能性に挑戦する精神を育む。 (2) 授業・行事・部活動に臨む際の集中力と自主性をより一層高める。
(3) 地域や社会に積極的に貢献し、信頼される人材を育成する。

そのため、学校総体として、充実した教育課程の中で生徒一人ひとりの学習意欲や基礎学力の向上、夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実、部活動及び生徒会活動の活性化、地域連携・中高連携・高大連携の充実、規範意識や人権尊重意識の向上等を中心に「学校力」を常に全力で向上させることをめざす。

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成と「魅力ある授業づくり」の推進

- (1) 新学習指導要領をふまえ、「わかる授業、充実した授業」「基礎学力の充実」をめざした授業改善に取り組む
公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に組織的に取り組み、生徒が主体的に学ぶ授業を増加させ、「ICTを活用した授業」「生徒の表現力・発表力の向上」への取組みについても研究を進める。

(2) 「確かな学力」の育成に必要な規範意識の醸成

- ア 生徒全員が学校生活をスムーズに送るため校時を遵守する意識を高める。そのため、登校時に校門での一斉指導を行う。また、授業開始時には着席指導を行うなど、授業規律の確立に全教員で取り組む。
イ 校舎内外や教室の清掃・美化を徹底し、学習が深められる環境を整える。

※ 生活基本調査における生徒の「授業への満足度」(平成27年度67%)を毎年引き上げ、平成28年度には72%、平成29年度には75%を超える。また、学校教育自己診断等における生徒の「授業が分かりやすく楽しい」の生徒の肯定率(平成27年度56%)を毎年引き上げ、平成28年度には60%、平成29年度には64%を超える。

2 夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実

- (1) 学年を追うごとに進路目標と卒業後の職業観が深化する取り組みをホームルーム活動、総合的な学習の時間等を通じて教育活動全体で行い、キャリア教育の充実をめざす。
※ 学校教育自己診断における「キャリア教育充実度(生き方や進路を考える教育)」の生徒の肯定率(平成27年度79%→28年度82%)を引き上げ、平成29年度には85%を超え、その後85%以上の維持する。
(2) 生徒の希望進路実現への取り組み
生徒の希望進路の実現に向け、学年及び関係分掌で具体的な方策を検討し、実現する。
※ 年度当初の4年制大学進学希望を維持させる指導及び確実な就職指導の体制のもと、生徒の希望進路実現率を平成28年度には、4年制大学75%(平成27年度70%)、就職100%(平成28年度100%)を維持する。平成29年度以降にはそれぞれ80%以上、100%を維持する。
(3) 国際理解教育と英語教育の推進
ア 具体的な取組みとして、平成26年度よりの他の府立高校と合同での国際交流研修を継続し、27年度平成28年度以降、5名以上の参加者を確保し活性化する。
イ 近隣の大学や地域への留学生と交流することにより、海外からの留学生との交流も視野に入れた国際交流を検討する。
ウ 生徒が実践的な英語力を向上させるために、英検受験を奨励する。H28年度は30人以上。次年度以降50人以上の受験者数をめざす。

3 部活動の活性化及びクラブ員のリーダーシップによる生活規律の向上

- (1) クラブ加入を促進する
ア 1年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させ、クラブ加入を促進する
※ 1年生のクラブ加入率・退部率(平成27年度は順にそれぞれ74%、6%)を平成28年度にはそれぞれ78%以上、4%以下にし、平成29年度以降、それぞれ80%以上、3%以下を維持する。
(2) クラブ員及び生徒会のリーダーシップによる全校的な生活規律の向上に取り組む
ア クラブ代表者会議やクラブ員集會をクラブ代表及び生徒会を中心に定期的に開催し、部長をはじめ、クラブ員の生活規律の向上の徹底を促す。
イ クラブ員が、生徒会と連携して、リーダーシップを発揮し、挨拶・遅刻・頭髪・服装・自転車通学マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。
※ 学校教育自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者の肯定率(平成27年度は順にそれぞれ72%、82%)をいずれも平成28年度には75%、85%以上をめざし、平成29年度以降それを継続する。

4 人権教育と教育相談機能のさらなる充実

- (1) 人権教育の充実を図り、年度ごとに時勢に即した内容をもとに計画に取り組み、人権意識の向上を図る。
※ 学校教育自己診断における「人権教育充実度」の生徒の肯定率(平成27年度77%)を平成28年度には80%以上にし、平成29年度以降それを継続する。
(2) 教育相談委員会や特別支援委員会の機能をさらに充実させ、障がいがある生徒や課題を抱える生徒への合理的配慮を行い、また、自立を支援できる体制をより一層確立する。
ア カウンセリングマインドをもって生徒に接することにより一層の徹底をはかる。
イ SCの延べ25回の学校訪問回数を確保するとともに、相談室の利用案内を生徒や保護者に周知徹底し、相談室の利用を促進する。
※ 学校教育自己診断における「学校生活についての指導の納得」、「先生は生徒が困っていることに真剣に対応」「担任以外にも相談室等で気軽に先生やSCに相談することができる」の生徒の肯定率(平成27年度は順に68%、65%、70%)をいずれも平成28年度には73%以上をめざし、平成29年度以降は75%にする。

5 広報活動と地域連携の充実

- (1) 入試改革による影響を的確に把握しながら、学校説明会・中学校訪問と広報活動(特に広報誌やホームページ)の充実を図る
ア 学校説明会・中学校訪問については、地元地域を重視しつつ学区撤廃による影響を的確に把握しながら、中学校の意向や意見を反映できるよう工夫する。
イ 学校訪問と学校説明会の増加及びその内容の充実に加え、クラブ見学会(仮称)の導入を図る。
ウ ホームページや配付物を通じての効果的な情報発信
※ 平成27年度以降、中学校訪問の範囲・回数の増加(27年のべ62回を28年度70校以上)及び学校説明会・見学会等への参加者数を増加させることにより志願者の増加につなげる。
(2) 地域連携の取組み
授業、クラブ、生徒会等において、地域との積極的に交流機会を増やし、本校の教育活動についての理解を深めてもらう。
※ 学校教育自己診断における地域貢献に関する項目の生徒の肯定率(平成27年度59%)を平成28年度には63%にし、平成29年度には70%以上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(全体として)</p> <p>○肯定率 3%以上アップ項目数：生徒 17/28、保護者 3/26、教職員 16/36 となった。逆に肯定率 3%以上ダウン項目数：生徒 2/28、保護者 4/26、教職員 11/36。また生徒の「学校へ行くのが楽しい」78→79%、保護者の「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」84→85%となった。生徒の高評価を保護者及び教員で共有できる広報活動やコミュニケーション能力の向上が課題となった。</p> <p>(学習指導)</p> <p>○生徒の生活基本調査「授業への満足度」は 67%で変化なしだが、自己診断「授業が分かりやすく楽しい」56→64%と改善。「発表の機会がある」の生徒の肯定率がそれぞれ 43→56%、「ICT を使う機会がある」56→68%と肯定的意見が増え、授業改革が進んできている。ICT の活用に関しては、設備の充実を今年度はかり、教員研修も実施したことこの結果につながった。一層の充実に努めたい。また、「実験・実習等の授業の取り組みがある」については 41→43%へ少し UP。</p> <p>○「学習評価の納得」に関しては、生徒 80→84%へ肯定的評価がやや増えた。保護者は「テストやその他を含む多面的評価」76→79%となり、評価及び学習形態の多様化についても昨年より引き続き、高評価をいただいた。</p> <p>(生徒指導及び進路指導等)</p> <p>○自己診断における肯定率、「生活規律」に関する項目、「先生の指導への納得」生徒 68→77%、保護者 82→80%。生徒の「基本的な生活習慣の確立に力」72→80%となり、引き続き高い評価を得た。</p> <p>○進路指導においては、生徒肯定率「進路や生き方を考える」79→85%、「進路について適切な情報提供」77→84%、保護者肯定率「進路や職業の適切な指導」78→79%と引き続き高い評価を得た。</p> <p>○生徒会・部活動については、生徒肯定率「学校行事参加の工夫」77→83%、「部活動に積極的に参加」85→84%、「生徒会活動の活発さ」71→72%となった。保護者肯定率「学校行事参加の工夫」92→93%、と高い評価を得た。</p> <p>○人権に関しては、生徒肯定率「人権の大切さを学ぶ機会」について肯定率 48→77→74%と変化してきたが、昨年度は人権講演会を自己診断直前に実施した影響が大きかった。今年度は 3 学期実施だが、行事ごとの人権啓発活動が計画的に行われたため、大きな肯定率の低下にはならなかった。</p> <p>(学校運営)</p> <p>○「校長は学校を良くしようとしている」(昨年度より)生徒肯定率 79→87%、保護者 84→85%、教職員 91→94%と良好な回答結果であった。</p> <p>○「地域との交流について」生徒 37→59%→59%、教員 79→77%、保護者 64%→60%となり、活動の広報に課題があると考えられる。「防災教育について」は生徒 65%→81%→85%と、学校の危機管理についてに高評価をいただいた。</p> <p>○教育活動についての「情報伝達と適切さ」保護者 89%→90%、教職員 81→89%など肯定的な回答が多かったが、「清掃の状況」については生徒 35%→52%→59%、教職員 29%→21%→36%となり、清掃の徹底がやや進んでいるが次年度も課題と考えられる。また、教職員の広報活動肯定度 81%→89%にもかかわらず「HP とメルマガの利用度」が保護者 52%→44%と低下しており、認知度と利用促進のため取組を促進する必要がある。</p>	<p>第 1 回学校協議会 (5 月 27 日) より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や学年のスローガンや計画を目立つように明示してほしい ・より一層のキャリア教育の充実を望む (授業見学後の意見) ・授業の形が変わり、活性化できてきている。 ・和やかと適度の成熟さをもつ授業となってきている。 ・生徒と教員が慣れ親しみすぎないように気を付けてほしい。 ・自転車マナーも以前より良くなってきている。一層の注意をお願いしたい。 <p>第 2 回学校協議会 (10 月 7 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は落ち着いて授業を受けている。 ・授業が受けやすい環境 (机の上や机の中等の整理) についての指導の徹底を望む。 ・ICT の活用や生徒の発表等の新しい授業が増加しているが、対話型、質問を多く取り入れた授業の実現を期待する。 ・生徒が時間を持て余すことないように、生徒が授業時間を有効に使うような授業展開や学習形式の工夫を望む ・遅刻数の大幅減及びスクールカウンセラーの活用 (教員研修やケース会議、カウンセリング) については好評評価を得た。 <p>第 3 回学校協議会 (2 月 1 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報発信について発信方法・頻度について話し合い、より良い形で次年度の広報活動をお願いしたい。大冠高校の特徴となる部分に焦点をあてた広報活動があれば、より地域や保護者興味・関心を持ちやすい。 ・生徒の授業に対する取組みについては、「しなければならない」から「したい」に変わっていきけるように、次年度、取り組んでほしい。 ・授業中に寝る生徒が減る授業活性化をより一層進めていただきたい。中学校との部活連携をより多くのクラブで実現し、中学生に「身近なモデル」を示してほしい。 ・就職希望生徒に SPI の練習を必ずさせておいてほしい。 ・高槻市と協力して緊急避難所としての役割を果たしていただきたい。 ・地域への広報活動において、地元地域が協力しやすいように、ポスターの大きさや配付時期等の工夫と連携をお願いしたい。 ・部活動における OB・OG の活用について指針を示していただけると生徒がより生き生きと活動できる。 ・今年度の授業研修も素晴らしいと思うが、より一層多くの教員が参加し、かつ、特に若手教員が成長できる場としてほしい。 ・オーストラリア語学研修の結果をより多くの生徒に知らせるとともに、参加生徒が授業や行事等で体験発表等も行う機会を設けるなど、国際化教育に多くの生徒を巻き込む工夫をお願いしたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「確かな学力」の育成と「魅力ある授業づくり」の推進	(1)「わかる授業、充実した授業」「基礎学力の充実」をめざした授業改善への取組み ア 生徒の主体的な学びを実現するための授業改善の取組み イ 公開授業を活用した授業改善の推進 ウ ICTを活用した授業の推進 (2)「確かな学力」の育成に必要な規範意識の醸成 ア 登校時に校門での一斉遅刻指導を導入する。 イ 校舎・教室内外の清掃・美化による環境整備	(1) ア・指導教諭と若手教員が主となり、有志教員や生徒も参加した授業研修を行い、充実したものとする。 ・授業改善に資するための教員の校内研修を充実させる。 イ 公開授業(4月、6月、11月)を活用し、教員・保護者・生徒の3者からの意見を集約し、授業改善を推進する。 ウ ICT活用等を活用するなど生徒の授業アンケートの「授業内容に、興味・関心を持つことができた」「授業内容に、知識・技能が身に付いたと感じている」の項目のレベルアップを図る。 (2) ア 生徒指導部を中心に輪番体制で毎日、校門での一斉遅刻指導及び身だしなみ指導を行う。 イ 日々の清掃活動の徹底をはかり、学習環境を整える。	(1) ア・授業研修の取組み状況についてホームページに掲載。 ・校内研修の毎学期実施、年3回以上。 ・「自分の考えをまとめ、発表する授業」肯定率43%(平成27年度41%) イ・公開授業(授業研修含む)のコマ数60以上。 ・生活基本調査における生徒の「授業への満足度」72%(平成27年度67%)、自己診断における生徒の「授業が分かりやすく楽しい」の生徒の肯定率60%(平成27年度56%)。 ウ・自己診断における「授業へのICT活用の機会」の生徒の肯定率60%(平成27年度56%)。 (2) ア・年間遅刻合計回数5000以下。 イ・「清掃が行き届いている」生徒・教員それぞれ55%以上、25%以上(平成27年度52%、21%)	(1) ア・授業研修の取組み状況についてホームページに掲載。校内研修実施5,10月に実施。2月に第3回実施予定。(○) 「自分の考えをまとめ、発表する授業」肯定率56%(△) イ・公開授業(授業研修含む)のコマ数65回実施。(○) ・生活基本調査における生徒の「授業への満足度」67%、自己診断における生徒の「授業が分かりやすく楽しい」の生徒の肯定率64% 生徒が主体的に参加できる授業を増やし、肯定率をさらに上げたい。(○) ウ・自己診断における生徒の「授業へのICT活用」68%。さらなる授業への活用を検討したい。(◎) (2) ア・年間遅刻合計3993(◎) イ・「清掃が行き届いている」生徒・教員それぞれ59%、36%以上(平成27年度52%、21%)(◎)
2 夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実	(1)キャリア教育の充実 学年を追うごとに進路目標と卒業後の職業観が深化する取組みに実施 (2)生徒の希望進路実現への取組み ア 進路指導方策の検討 イ 具体的内容の検討 (3)国際理解教育と英語教育の推進 ア 国際理解教育活動の継続 イ 今後の方向性の提示 ウ 英検受験の奨励	(1) 進学も含めた将来の生活設計を考えるため、1年時よりキャリア教育の充実を図る。 (2) ア 進路指導部と学年が協同し、計画的な進路講習を計画するなど、3年間を見据えた進路指導のさらなる充実を図る。 イ 生徒の希望進路の実現に向け、担任及び教科で具体的な方策を検討し、充実を図る。 (3) ア 国際交流研修の推進として、近隣の府立3校合同でオーストラリア交流研修を継続・充実をはかる。 イ HPや文化祭等での発表を充実させる。 ウ 英検受験を推進し、必要な生徒には合格のための補講を行う。	(1) ・自己診断における「将来や進路について考える機会」の生徒の肯定率80%以上。(平成27年度79%)。 (2) ア 生徒の希望進路実現率を4年制大学75%(平成27年度70%)とし、就職100%(平成27年度100%)を維持する。 イ 「集中勉強会」の参加生徒増及び内容の充実。2回実施、生徒のべ参加者40人以上。 (3) ア 語学研修の参加や内容の充実を図る。参加者5人以上。参加校全体での研修を実施する。 イ 派遣先での交流をHPで公開するとともに文化祭等で発表し、公開する。 ウ 30人以上の英検受験者を確保する。	(1) ・自己診断における「将来や進路について考える機会」の生徒の肯定率84%。 (2) ア 生徒の希望進路実現率を4年制大学82%。(受験中・未定)就職率100%を維持達成。進路全体の満足度92%(○) イ 「集中勉強会」の参加生徒増及び内容の充実。3回実施。のべ161人(◎)。 (3) ア 語学研修の参加や内容の充実を図る。参加者6人。参加校全体での研修を実施する。(○) イ 派遣先での交流をHPで公開するとともに文化祭等で発表し、公開した。 ウ 英検受験者2学期末27人(○)
3 部活動の活性化及びリーダーシップによる生活規律の向上	(1)クラブ活動の活性化 ア 1年次当初のクラブ加入促進の取組み イ 指導者の確保と校内での重点クラブの指定 ウ 活性化策を検討 (2)クラブ員及び生徒会のリーダーシップによる生活規律の向上 ア 生徒自ら生活規律の向上を図る方策の検討	(1) ア・1年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させ、クラブ加入を促進する。 イ・部活動代表者会議による重点クラブの指定や会議内容の広報に努め、部活の活性化に努めるとともに人的及び予算面で配慮し、効果をあげる。 ウ 活性化策を検討 (2) ・クラブ員が、生徒会と連携して、リーダーシップを発揮し、挨拶・遅刻・頭髪・服装・自転車マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。	(1) ア・1年生のクラブ加入率、退部率をそれぞれ78%以上、3%以下(平成27年度74%退部率5.9%) イ・予算の傾斜配当・場所確保等を行う。 ウ・クラブ代表者会議での生徒要望を集約する。(各学期1回計3回以上) (2) ・クラブ代表者会議等において、生徒による生活規律の向上を検討する。自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者のいずれも肯定率75%、85%以上(平成27年度は順に72%、82%)を達成する。	(1) ア・1年生のクラブ加入率、退部率をそれぞれ81%以上、7%。(○) イ・予算の傾斜配当・場所確保等を行う。 ウ・クラブ代表者会議での生徒要望を集約。また、その開催後校内クラブ清掃を実施。各学期1回計3回実施予定。(○) (2) ・クラブ代表者会議等において、生徒による生活規律の向上を検討する。自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者のいずれも肯定率80%、80%。(○)
4 人権教育と教育相談機能のさらなる充実	(1)人権教育の改善と充実 ア 本校として時勢に即した人権教育計画を策定と改善・充実 (2)教育相談委員会や特別支援委員会の機能のより一層の充実 ア 教職員へのカウンセリングマインドの徹底 イ SCの学校訪問回数の確保及び相談室の利用の促進	(1) ア・人権教育企画委員会(略して「人企委」)の議論を活性化し、本校として時勢に即した年間計画を策定し、今年度は、「自尊感情の醸成」をテーマに実践する。 (2) ア・カウンセリングマインドをもって生徒に接し、生徒一教職員相互の信頼関係強化を一層徹底する。 イ・SCの相談室の利用案内を生徒や保護者に周知徹底し、相談室の利用を促進する。	(1) ア・自己診断における「人権教育充実度」の生徒の肯定率80%。(平成27年度77%) ・自己診断における「人権教育取組み充実度」の教職員の肯定率65%。(平成27年度60%) (2) ア・自己診断における「教育相談体制充実度」生徒の肯定率73%以上。(平成27年度70%) イ・SCの教育相談内容を研修や個別相談を含めて充実をはかり教職員で情報共有し、SCのべ25回の学校訪問回数を継続する。	(1) ア・自己診断における「人権教育充実度」の生徒の肯定率74%。(△) ・自己診断における「人権教育取組み充実度」の教職員の肯定率68%。(○) (2) ア・自己診断における「教育相談体制充実度」生徒の肯定率79%(◎) イ・SCの教育相談内容を研修や個別相談を含めて充実をはかり教職員で情報共有し、SCのべ25回の学校訪問回数を継続確保。(○)
5 広報活動と地域連携の充実	(1)学校説明会・中学校訪問や広報活動の充実 ア 学校説明会・中学校訪問の充実 イ 広報内容の充実 特にHP更新回数増及び配付物による教育活動の公開 (2)地域連携の取組み 授業、クラブ、生徒会等における地域連携への取組みの強化	(1) ア・入試改革による影響を的確に把握しながら、地元高槻を中心に枚方方面の中学校の意向や意見を反映できるよう工夫する。 イ・広報活動を効果的なものにするためのコンテンツの充実を図り、またHPの更新に努め、本校の教育活動を公開する。 (2)授業、クラブ、生徒会等において、地域との交流機会を増やすとともに、HP及び紙媒体での広報に努め、本校への理解を深めてもらう。	(1) ア・学校説明会への参加者数300人以上の維持。クラブ見学会(仮称)の実施及び学校見学会の3日以上実施。(平成27年度310人、学校見学会3日実施) ・入学実績をもとに高槻市を中心に枚方南西部、寝屋川北西部までの中学校への訪問をのべ60校以上を継続し、中学校の要望を聞き取り、反映する。教育産業への働きかけのべ20校以上を継続する。 イ・HPを担当するため教職員のチームで内容充実と年間50回以上の更新を継続する。 (2)自己診断における地域貢献に関する項目の生徒の肯定率63%以上(平成27年度59%)。	(1) ア・2回の学校説明会への参加者延べ数440人。クラブ見学会 約110人(生徒・保護者)参加。ひ第1回学校説明会参加300人、第2回110人その後の見学会3日(5回)実施延べ162人参加(◎) ・入学実績をもとに高槻市を中心に枚方南西部、寝屋川北西部までの中学校への訪問をのべ68校訪問、教育産業への働きかけのべ23校、情報交換に努めた。(○) イ・HPを担当するため教職員のチームで内容充実と毎週年間60回以上の更新。(◎) (2)自己診断における地域貢献に関する項目の生徒の肯定率59%。(△)